

日本聖公会で用いている祈禱書に、洗礼堅信式の式文があります。洗礼を受けるときに志願者は「誓約」をします。その中で次のように問われます。

〈司式者〉 あなたは、主イエス・キリストに帰り、あなたの救い主として受け入れますか

〈志願者または教父母〉 神の助けによって受け入れます

また聖餐式で会衆とともに代禱(お祈り)をささげるとき、このような呼びかけがあります。

〈執事〉 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世界のために祈りましょう

このようにわたしたちの信仰において、イエス様を救い主として受け入れ、それを表明することはとても大切なことです。

救い主という言葉は、旧約聖書の中にも登場しますが、そこでは神さまのことを意味していました。しかし新約聖書の中では、イエス様のことを指す場合と、み子を遣わすことによってこの世を救われた神さまに対して用いる場合の両方があります。しかし礼拝や信仰生活の中では、イエス様を救い主と考える方が自然のようです。

神さまはわたしたちを救うために、み子であるイエス様をわたしたちの間に遣わされました。その救い主イエス様は十字架の死によってわたしたちの罪を贖われたのち、復活されました。

その神さまの救いのご計画を受け入れること、イエス様がわたしたちと共にいてくださることを信じること、それが「イエス様を救い主として受け入れる」ことだと思えます。

次回は「聖」です。お楽しみに。



「羊飼いの礼拝」

アーニョロ・ブロンズイーノ

(1503~1572年)

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。

(ルカによる福音書 2章11節)

